

# 「道徳の時間」の特質

(その1)



「道徳の時間」の特質について教えてください。

まず、「道徳の時間」の目標を確認してみましょう。



## 「道徳の時間」の目標

「道徳の時間」以外における道徳教育と密接な関係を図りながら、**計画的、発展的**な指導によって、それらを**補充、深化、統合**し、**道徳的価値の自覚**及び

(小)自己の生き方についての考えを深め、

(中)それに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、

**道徳的実践力**を育成する。

「道徳の時間」の特質を理解するには、次の4つがキーワードになりそうですね。



## 道徳の時間の特質

- 計画的、発展的に指導する。
- 補充、深化、統合する。
- 道徳的価値の自覚を深める。
- 道徳的実践力を育成する。

今回は、「計画的、発展的に指導する。」ということについて確認しましょう。



## ■ 計画的、発展的に指導する

「道德の時間」では、学校の教育活動全体で行う道德教育との関連を明確にし、児童生徒の発達段階に即しながら、道德の内容に示された基本的な道德的価値の全体にわたって計画的、発展的に指導することになります。

————→ 「道德の時間」の大きな特徴

地域や学校の実態及び児童生徒の発達の段階や特性を考慮し、教師の創意工夫を加えて、道德の内容の全てを確実に指導することができる見通しのある計画を立てる必要があります。



今までは、あまり教育活動全体で行われる道德教育との関連は意識していませんでした。成果が実感できなかったのは、そのためかなあ・・・。



「道德の時間」を毎週しっかり行うことは、とても大切なことです。確実な実践は児童生徒の道德性の育成には必ずつながっています。ただし、教育活動全体で行う道德教育と「道德の時間」の関連を図るという視点で、道德教育全体計画（別葉も含みます）、そして、年間指導計画を見直してみる必要があります。

例えば、「思いやり」という道德的価値項目について、日常どのような指導をしているのか？ 総合的な学習の時間では、どのように考えさせているのか？ 各教科では？ そして、「道德の時間」では？ などが計画の上で明らかになっていること、そして、全教師でそれを共有して、意識して指導できることが大切です。

また、年間指導計画は、学校の教育計画として、意図的、計画的に作成されるべきものであるので、「道德の時間」の指導内容について、指導者の恣意による不用意な変更や修正が行われるべきではありません。合唱コンクールがせまっているので、急遽「協力」を価値項目として扱うというようなことは避けるべきです。

変更や修正をする場合は、児童生徒の道德性育成の観点から考え、より大きな効果を期待できるという判断を前提として、少なくとも学年などによる検討を経るようにすることが大切です。また、変更した場合は、次年度の計画にも反映するようにしたいものです。